

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401764		
法人名	株式会社ハートケアライフ		
事業所名	グループホーム ハートケアライフ八軒（1階めくもり）		
所在地	札幌市内西区八軒5条西3丁目3-26		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 25日	評価結果市町村受理日	令和7年3月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail022&kihon=true&JigyosyoCd=0170401764-00&ServiceCd=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各々の能力に応じた支援を心掛けています。毎日のレクリエーション活動では入居者
 全員の参加を目指し、風船パレー、玉入れ、かるた、ゲーム等積極的に取り入れ入居
 者同士の声の掛け合いや励ましに職員もビックリするほどのチームワークです。
 言葉が直ぐに出てこない入居者やものが良く見えていない入居者も歌うことはとても
 楽しまれております。行事に参加する為「歌」の練習を毎日のレクリエーション活動に
 取り入れ当日歌う事ができました。
 これからも「笑顔あふれ、安心感、信頼感」を与える事の出来るケアを目指して行きま
 す。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和7年1月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 運営の基本事項：事業所は、地下鉄やJRから徒歩圏内で、バス停やコンビニ等利便性が高く、利用者が地域の人達とふれ合いながら、ごく普通の社会生活が継続できる環境にある。事業所の運営方針として地域密着を堅持しており、周辺住民に親しみ良好関係を築いている。

2) 職員の安全への基本姿勢・態度：職員は事業理念等介護の基本を踏まえて、研修を重ねて、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。

3) 家族の介護支援への好感等：家族は職員が利用者・家族の声に耳を傾け、柔軟で適切な介護の対応姿勢に高い好感を寄せている。

4) 運営推進会議開催状況：家族、地域代表、地域包括支援センター等の参加を得て、定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参加者の意向を運営に反映するよう努めている。

5) 自治組織・機関等の連携：行事は地域住民やボランティアの方々の参加、協力、連携と役割を担っている。BCP（業務継続計画）を策定するなかで、自然災害について地域的な課題についても連携し、改めて相互の役割・協力体制を検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○ 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の間 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員で共有する為カード式にして携帯するとともにユニット内に掲示しています。	理念は事業所内各所に掲示し、利用者や職員、家族等のに向けて開示している。また、職員が常に意識し、実践出来る身近な理念となるよう、定期的に話し合いの機会を持っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方への挨拶や運営推進会議を通じて地域の方との交流を図っています。地域の行事にも参加させていただいています。	地域の一員として、開設から地域近隣住民との協力関係には注力しており、町内会や地域包括支援センターとの連携により福祉の専門家として、地域への還元、関係維持に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で発信しています。参加者からは地域に認知症のホームがあって将来安心だと喜ばれております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の現状報告と資料をお渡し意見を頂きサービスの向上に活かしております。全職員には「議事録」で周知しています。	家族、町内会代表、行政の協力を得て、集合型で定例開催している。運営状況や事業所としての目標の達成具合等を報告し、議事録を家族にも送付しており、意見を取り入れることで、サービスの質の向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは施設長が密に連絡をとっております。協力関係を築くよう取り組んでいます。	市窓口、地域包括支援センターからは、主に運営推進会議やメールで助言、指導を得ている。また、事業所の運営状況、地域との関わり等の情報交換を行い、開かれた事業所作りに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については定期的に委員会、研修を行っております。フロア入口の扉については保安上の理由で施錠しております。	法人全体で身体拘束や虐待をしないケアを掲げている。指針の下、定例で身体拘束、虐待委員会、研修会を開催し、職員のより深い理解度に繋げている。職員のストレス軽減への配慮もあるなど、安心感ある職場環境に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については定期的に委員会、研修を行っております。虐待につながる不適切ケアにつながらないように職員のストレス軽減の為の業務改善、職員同士の協力関係の構築を大切にしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護に関する制度を学んでいます。現在はご入居者で必要性のある方はなく活用していません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約、改定の際は入居者や家族に丁寧に説明し理解をいただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりの中では職員は利用者や家族の意見要望を聞き取る姿勢を持つよう心掛けています。意見箱の設置とご家族へのアンケートを実施しております。	主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、会議の場で検討して運営やケアプランに反映している。また、お便り・電話等で柔軟に情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の意見提案を常に汲み取る努力しており、代表は年に一度個人面談を行ない意見を反映させています。	日常の業務やユニットカンファレンスでは、率直な意見表出が定着しており、業務改善やより良いケアの提案を受け、その実践に反映している。職員は人事考課として自己評価に取り組み、代表による個人面談時に達成度について助言を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員が記入した自己評価をもとに個人面談を行い職場環境、条件の整備に努めています。ステップアップのための研修を受ける機会を与え、向上心を持って働けるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンラインを使つての研修や希望者に初任者研修、実務者研修などを勤務として保証し受講させています。職場内では毎月施設内研修を義務付けて実施しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染以降は機会が少なくなりましたがグループホームの管理者連絡会で空室情報などの協力関係は築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	契約前には施設長、管理者がご本人と面談をして安心して入居して頂けるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にご家族にもお話を聞き困っている事要望を聞き取り良好な関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の困っている事必要としている支援を見極め初期対応行っています。他のサービスが必要な場合は対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の能力、力を情報共有し、主体的な生活を送って頂けるような関係を築いております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族との信頼関係を築いた上で本人と共に支える協力者とし尊重して関わっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親族の方が面会に来られています。家族内のイベントやご家族のダンススクールに参加する為外出されています。	面会については、5類に移行後、家族以外に友人、知人の来訪にも対応している。電話や年賀状等の取次ぎでも、馴染みの関係性を支えている。外出支援は感染状況を考慮しつつ、柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の日常の言動や様子を把握し、話しやすい様椅子やソファの配置を工夫しております。良い関係を作り合える様努めております。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は日常の関わりの中で聞き取りや様子から汲み取り職員で共有し本人を尊重する支援に努めています。	終末期を含めた個々の意向や希望の聞き取りに注力している。困難な場合は、家族の意見も参考にしながら本人本位の生活となるよう、申し送りや会議等の場で協議し、可能な限り応えられるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報提供書、ご本人ご家族からの聞き取り把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の行動の観察、職員間での情報を共有し心身状態、有する力等の把握に努めています。ケアの方法や休憩時間、趣味活動などを考えて実施しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む暮らしをどの様にしたらよいか職員間で話し合い本人家族と相談し介護計画を作成しています。大きく変化があった場合は、介護計画期間中でも変更作成しています。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録、職員によるモニタリングを基にカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に則した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録に記入し家族には複写を送付しています。職員間では申し送りと個人ノートで情報共有し実践介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に合わせ柔軟な支援サービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊り、餅つき等地域の行事に参加させて頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と事業所は協力関係を築いており本人、家族の希望で往診以外の受診も受け付けております。	協力医療機関による訪問診療時に医療的相談やアドバイスを受け、利用者の健康を守っている。また24時間オンコール体制で夜間や緊急時の対応に備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問する看護師には情報や気になることを伝えアドバイスをいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者、家族と連携し退院後の生活が安心して送ることが出来るように支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態に変化があった場合は本人、家族と話し合いホームで出来る事を十分に説明し方針を相談しています。他施設、病院が必要な場合の支援も行っています。	契約時に重度化対応の方針を説明し、同意を得ている。事業所での生活に支障が出てきた状況で、他施設や病院への移行支援を行い、利用者と家族、医療機関と話し合い、より良い支援になるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について施設内研修を行い職員が共有し実践力を身につける訓練を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的に行なっています。地域の協力体制は運営推進会議の場で話し合っています。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。法人としてBCPを策定しており、職員は自身の役割を確認しながら、事業所全体の動きも把握している。また、法人の事業所、地域との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないケアを心掛けております。見かけた際は「虐待防止委員会」「ユニット会議」で検証しています。	接遇面は研修で学び、カンファレンスや勉強会の場で職員同士で注意し合える関係作りに努めている。呼称は苗字にさん付けとし、一人ひとりの人格の尊重を基本にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のケアの中で会話を多くするように心掛けています。利用者の思いや希望を把握しご自分で決められる様な支援を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間の都合で動いてしまわないよう心掛け、ご本人の体調、希望を確認しながら行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	使い慣れたシャンプー、化粧品を使いご本人の好みを大切にしています。誕生日会には本人の希望を聞き職員がメイクの支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来ることをして頂いています。白玉団子作り、ホットプレートで作るどら焼きなどのレクリエーションは楽しんでされています。	献立、主食は利用者の希望を取り入れており、季節感や栄養バランスを大切にしている。可能な利用者には配膳準備・片付けなどを手伝ってもらい、楽しみながら力を活かせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量、形態に合わせた食事を提供し食べやすい食器での自力摂取を見守っています。水分補給の難しい入居者にはゼリー状にして対応しております。自力摂取の難しい方は介助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は声掛けし介助の必要な方は出来ない所をお手伝いしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人からのサイン、排泄表から時間誘導しております。出来るだけご自分で行えるように支援しております。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、自然な排泄支援となるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、運動等で便秘予防に努めています。必要に応じ主治医へ相談し下剤の処方もあります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の好みの湯加減、体調に合わせてお誘いし入浴を楽しめる支援をしています。	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。事業所都合ではなく、同性介助等、利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠、午後からはご本人の好みに合わせ支援しています。就寝時の照明もそれぞれの好みに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方、変更された時は個人の連絡ノート、申し送りに記入し職員間で共有しています。副作用がある場合は見守りと観察を細かく行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーション活動に一人一人が楽しめる内容を取り入れて全員が参加できる様に工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の希望で外出は行っています。ホームでは地域の催しやお天気良い日は散歩や近隣のお花を見に行ったりしております。ご家族のダンススクールに出掛ける入居者もいます。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物、家族との外出等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。自粛していた行事等の参加再開に関し、職員間で検討し、実現させた。	個別に声掛けし、嗜好品の買い物支援や近隣の散策等、閉じこもらない介護に取り組んでいる。今後も地域行事参加や外出支援の予定がある事から、更なる充実に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事を希望されている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らお手紙を書いたり、ご家族様からの電話を取りつくと喜ばれてお話しされています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は落ち着いた雰囲気や季節、行事を感じて頂けるような飾りにしています。温度、湿度を大切にして換気を適度に行っています。廊下には毎月の新聞を掲示しております。	共用空間は程良い広さで、温・湿度や換気、テレビ音や照明、眩しさも個々の様子を見て都度、調整している。清潔に配慮し、壁や天井に季節の装飾を掲示し、落ち着いてゆったり過ごせるよう、それぞれの心地よい居場所感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の部分にソファを置いてご自由に座り過ぎて頂ける様に工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人とご家族の好みにして頂いています。転倒リスク等も考慮しながら本人の承諾を得て配置を変えています。	本人の安心できる環境を整えるために、入居前の自宅の様子を理解し、動線やベッドの配置を検討している。思い出のあるものが持ち込まれ、家族写真や趣味の物を手元に置いて、自分らしく安心して暮らせる環境作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室は見えやすい位置に表示して一人でも分かる様にしています。迷う方には、様子を見ながら職員が誘導し安全で自立した生活が送れる様支援しています。		